

公益社団法人私立大学情報教育協会
令和4年度 第3回産学連携推進プロジェクト委員会議事概要

- I. 日 時：令和4年12月23日（金）13：30～15：30
- II. 場 所：私立大学情報教育協会（ZOOMによるテレビ会議開催）
- III. 参加者：向殿委員長、大原副委員長、青木委員、歌代委員、松本委員、田辺委員、
齋藤アドバイザー、吉永アドバイザー、渡部アドバイザー、原田アドバイザー、青木アドバイザー、
井端事務局長、森下主幹
- IV. 資料
1. 2022年度「学生による社会スタディ」の開催要項
 2. 2022年度「大学教員の企業現場研修」の開催要項
 3. 2022年度「産学連携人材ニーズ交流会」の開催要項（案）
 4. 2022年度 産学連携事業 開催日程検討表

V. 検討内容

1. 「学生による社会スタディ」、「大学教員の企業現場研修」の開催要項について

前回までに決定した開催要項、「学生による社会スタディ」、「大学教員の企業現場研修」の報告及び既に参加者募集に入っていることが確認された。

2. 「産学連携人材ニーズ交流会」の開催計画について

(1) 情報提供について

前回の検討に基づき企業3社及び文部科学省に情報提供（講演依頼）を行った結果、了解が得られたことが報告され、資料3. 「2022年度「産学連携人材ニーズ交流会」の開催要項（案）」をもとに、情報提供1、情報提供2、全体討議について以下のように取りまとめた。

情報提要1

- ① ビジネスを通じた社会課題解決（SDGs）を目指す富士通の取組み
藤井 宏紀 氏 富士通株式会社 サステビリティ推進本部
ソーシャルバリュー室 シニアマネージャー
- ② カーボンニュートラからカーボンネガティブを目指すマイクロソフトの取組み
阪口 福太郎 氏 日本マイクロソフト株式会社 文教営業統括本部
Education Skills Lead / DX 戦略室長
- ③ 人と地球と宇宙の持続可能性の実現に向けた「宇宙のSDGs」の取組み
伊藤 美樹 氏 株式会社アストロスケール 上級副社長

情報提要2

- ① AI戦略2019と数理・データサイエンス（DS）・AI教育プログラムの推進・普及
木谷 慎一 氏 文部科学省 高等教育局 専門教育課 課長補佐
- ② 企業等社会の現場感覚や知見などの知的資源を大学教育に活用する
オープンイノベーションの提案
大原 茂之 氏 公益社団法人 私立大学情報教育協会情報専門教育分科会主査

(2) 全体討議について

全体討議のテーマは、「SDGsサイバーフォーラムコモンズ」想のニーズ、課題を考える」とし、情報専門教育分科会で検討している「SDGsサイバーフォーラムコモンズ構想」の学びの仕組みとして、プラットフォームに「大学主体のチーム」と「企業・社会主体のチーム」を設け、SDGsのテーマ別にメタバースを活用してマッチングを行うこと、及びマッチング後の産学の共

創活動に分野を横断した多面的な問題解決の考察に、メタバースや拡張現実等の XR 技術を導入することのメリット・デメリット及び実現性と今後検討すべき課題について意見交換する。

(3) 開催日程

資料4「2022年度 産学連携事業 開催日程検討表」をもとに、協力いただく有識者のご都合に合わせて日程調整を行った結果、令和5年3月3日（金）12：30～17：30に開催することにし、以下の開催要項を取りまとめた。

公益社団法人 私立大学情報教育協会
第13回産学連携人材ニーズ交流会

日時： 2023年3月3日(金) 13：00～17：00
配信会場： アルカディア市ヶ谷（私学会館） オンライン開催（Zoom 使用）
東京都千代田区九段北 4-2-25 TEL 03(3261)9921（代表）

1. 開催趣旨

日本は世界の中で成長力、競争力、デジタル化など多くの分野で地盤沈下を起こしており、危機的な状況にあります。その源泉の多くは、人材の育成にあるといっても過言ではありません。これを打開していくには、学生が自分の考えをもって主体的に関わり、新しい価値の創造に立ち向かっていけるよう、日本社会全体で学びを支援する仕組みが必要です。大学での知の創造に加え、社会や企業の知見・現場感覚などを取り入れた学びのための「共創活動の拠点」を設け、新たな価値創造に立ち向かう教育のオープン・イノベーションの仕組みが不可欠です。

そこで今回は、経済発展、環境や社会が抱える問題にバランスよく取り組み、その根本的な解決によって、世界を持続させる目標(SDGs)を掲げ、企業活動を通じて社会課題の解決に取り組む企業から、事業戦略及び大学教育に対する人材育成の期待・意見をうかがいます。その上で、新しい価値の創造を目指す授業の普及・推進策として、データサイエンスなどを活用し、SDGsの解決を目指す産学連携による共創活動(SDGs サイバーフォーラムコモンズ)の構想について、実現可能性やパイロットプランに向けた方向性を探求したいと考えています。

2. プログラム

13:00 開会挨拶 向殿 政男 氏 公益社団法人 私立大学情報教育協会会長

13:10 情報提供 1

(1) ビジネスを通じた社会課題解決 (SDGs) を目指す富士通の取り組み

藤井 宏紀 氏 富士通株式会社 サステナビリティ推進本部

ソーシャルバリュー室 シニアマネージャー

「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくこと」をパーパスと定め、その実現に向けて、社会全体を捉えたデジタルトランスフォーメーション (DX) を鍵に、業種の壁を越えたエコシステムを形成し、経営および社会の在り方の変革と社会課題の解決に貢献する富士通グループの取り組みについてご紹介いただくとともに、求める人材像についてお話をいただきます。

(2) 「カーボンニュートラ」から「カーボンネガティブ」を目指すマイクロソフトの取り組み

阪口 福太郎 氏 日本マイクロソフト株式会社 文教営業統括本部

Education Skills Lead / DX 戦略室長

「2030年までに自社が消費する電力の100%を再生可能エネルギーに切り替える」ことを公表し、さらに、「創業以来電力消費によって排出したすべての炭素を 2050 年までに環境から取り除く」という「カーボンニュートラル」を超えた「カーボンネガティブ」に取り組んでいるマイクロソフトの SDGs の取り組みについてご紹介いただくとともに、人材育成や大学教育などについてもお話をいただきます。

(3) 人と地球と宇宙の持続可能性の実現に向けた「宇宙の SDGs」の取り組み

伊藤 美樹 氏 株式会社アストロスケール 上級副社長

放送、天気予報、災害対策、GPS、カーナビなど、社会生活に宇宙と衛星の利用は不可欠な存在となっています。しかし、宇宙にはルールや規制がなく、廃棄衛星・部品・破片など約 1.8 億個がスペースデブリ (宇宙ごみ) として飛び回っており、このままでは宇宙の持続利用が不可能になってしまいます。そこで、「宇宙のサステナビリティ」に向けてデブリ除去に取り組んでいる株式会社アストロスケールの取り組みをご紹介いただくとともに、人材育成や大学教育に対する期待・意見などについてもお話をいただきます

14：40 休憩 (10分)

14:50 情報提供2

- (1) AI戦略2019と数理・データサイエンス(DS)・AI教育プログラムの推進・普及
木谷 慎一 氏 文部科学省 高等教育局 専門教育課 課長補佐

デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス(DS)・AIの基礎」などに必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築するため、2025年度までに学生の「数理・データサイエンス(DS)・AI」への関心を高め、「適切に理解し活用する基礎的な能力を育成するリテラシレベル」、「DSを活用して課題を解決するための実践的な能力を育成する応用基礎レベル」の推進・普及に向け、大学への認定制度の対応について説明いただきます。

- (2) 企業等社会の現場感覚や知見などの知的資源を大学教育に活用する

オープンイノベーションの提案

大原 茂之 氏 (公益社団法人 私立大学情報教育協会情報専門教育分科会主査)

学生と社会が連携して新たな価値を創造する学びの仕組みとして、クラウド上にSDGsの解決を目指す共創活動の拠点(「SDGsサイバーフォーラムコモンズ」としてPBLのプラットフォームを設け、意欲のある関係者が集い、意思疎通を立体化するためにXR(メタバースの仮想現実、拡張現実、複合現実)の技術を活用しながら、時間・場所に制約されない仮想空間で最適な関係者とプロジェクトを組み、世界に通用する問題解決力の学びのモデル構想「SDGsサイバーフォーラムコモンズ」の構想について、情報専門教育分科会から報告・提案します。

15:30 全体討議

「SDGsサイバーフォーラムコモンズのニーズ、課題を考える」

「SDGsサイバーフォーラムコモンズ構想の学びの仕組みとして、プラットフォームに「大学主体のチーム」と「企業・社会主体のチーム」を設け、SDGsのテーマ別にメタバースを活用してマッチングを行うこと、及びマッチング後の産学の共創活動に分野を横断した多面的な問題解決の考察に、メタバースや拡張現実等のXR技術を導入することのメリット・デメリット及び実現性と今後検討すべき課題について意見交換し、それを踏まえて次の段階としてのパイロットプランの検討に着手します。

16:50 閉会挨拶

17:00 閉会

3. 参加対象者

- (1) 大学関係者

私立大学の教員、職員

- (2) 企業関係者

本事業に賛同する企業の経営責任者、人材育成部門・事業部門の責任者及び担当者

4. 参加費

無料

(3) スケジュール

令和5年1月中旬に開催要項を国・公・私立大学に発送し、参加者を募集することにした

4. 次回の日程について

令和5年2月に小委員会を開催して最終的な開催準備を進めることにした。